第7章
副読本
44～45ページ

ふるさとのいちご畑復活を夢見て

年　　組　　番　氏名

1 震災で被災したいちご畑復活を夢見て取り組んできたか主人公の思いを考えて書きましょう。

ふるさとのいちご畑復活を夢見て

「君たちは将来，国民のみんなが口にする食べ物を作ることになる。大変重要で意義のある仕事に就ける。これはすごいことなんだよ。」

高校に入学したとき，先生が言われた言葉です。この言葉が今でも私の心の糧になっています。「よいものを作る」「おいしいものを作る」という思いが農業をやるときのモチベーションを高めました。だから津波でいちご畑が破壊されても「おいしいいちごを作りたい」という思いを強くもち続けることができたのです。

そう話してくれたのは，現在も亘理町吉田でいちごの栽培を営む森榮吉さんです。

亘理町は，「いちごの町」として有名です。東日本大震災の前は，年間20億円以上ものいちごを生産販売し，県内での生産量は第1位，東北地方でも屈指の生産量を誇っていました。震災前には，約250世帯もがいちご栽培をしていたのです。

2011（平成23）年の3月のいちごは，森さんが約40年間いちごを作ってきた中で最高の出来映えでした。理想的なコンディションが整って，実の張りもよく，甘みも絶好です。「絶対に間違いない。これこそ私が求めてきた理想のいちごだ」と自信をもって言いきれるものができたのです。

3月11日。いちごは最盛期を迎え，ハウスの中は真っ赤に輝くいちごが甘い香りを放っています。森さんはその日も海岸近くにあるハウスにいちごを摘みに行き，出荷したところでした。

そのときです。今までに経験したことのないような地震が起きました。

亘理町の沿岸部は内陸2.5kmの場所にまで押し寄せた津波により，大きな被害を受けました。多くの建物が原形をとどめないくらい壊れるほどの被害が出たのです。町内でも250戸あったいちご農家のうち，232戸が自宅やビニールハウスなどを流されています。さらに，多くの仲間たちが亡くなりました。

森さんは，内陸の方へ避難してなんとか無事でした。しかし，丹精込めたいちご畑は全滅でした。数日後行ってみると，ビニールハウスや設備などかつての面影はまるで何もなく，あたり一面を砂が覆っているだけでした。いちご畑は影も形もなくなっていたのです。農業に必要なものすべてが津波に流されてしまいました。自宅も基礎だけを残して流され，森さんに形のあるものは何も残りませんでした。

森さんが「彼こそ後継者にふさわしい」と心に決め，親身になっていちご栽培を教えてきた青年も亡くなってしまいました。やり場のない怒りと喪失感にさいなまれ，森さんはただ泣くしかありませんでした。

（写真提供：日本財団「東日本大震災アーカイブ宮城」）
津波の被害を受けたいちご畑

「こころの財（たから）だけは絶対に壊されません。」これは震災直後に心の師匠ともいうべき方からおくられたメッセージです。これが全ての物を失った森さんに勇気を奮い起こさせてくれました。そして自分の心に「生まれ育ったこの場所に戻りたい。もといた場所に戻り，いちご農家としての生活基盤を再生したい！　一番得意で一番大好きな仕事をやりながら力強く生きていきたい！もう一度いちごを作りたい！」という再生への強い思いがわき上がってくるのを感じました。

そうして森さんは震災からわずか1週間後には，いちご畑再生のための戦いをスタートさせる決意をしたのです。

しかし，多くの農家は，「何もかもなくなってしまって，頭の中が真っ白だ」とぼう然としていて，農業再開に乗り気ではありません。無理もないことだと思っていると，ある20代の青年がこう言ってくれたのです。

「オラは農家をやるよ。農業楽しいっちゃあ。農業大好きだ。」

森さんは青年たちを励ましながら，いちご畑再生へ向けてJA（農協）や役場の職員に何度もかけ合いました。若者がやる気を出していると聞けば，誰だって前向きな気持ちで頑張ろうと思えるものです。

2012（平成24）年春，ついにいちご畑復活が現実のものとなる計画が持ち上がりました。

国の復興交付金を受け，亘理町に大型ハウスを林立させる大規模いちご団地をつくるという計画です。それは「高設ベンチ」という立ったままいちごを栽培する最先端の技術を取り入れたものでした。いちご復興団地の組合長に推薦された森さんは，各組合員の復興に向けたそれぞれの思いを背負い，「もう一度亘理町にいちご畑を復活させる！」という強い思いで奔走し，多くの困難を乗り越えました。

（写真提供：宮城県）
完成したいちご復興団地

そして2013（平成25）年8月にいちご復興団地が完成しました。「もう一度亘理町でおいしいいちごを作る」という森さんの夢が叶った瞬間でした。

「おいしいだけでなく，誰が食べても安心できるいちごを提供したい。」そんな思いを胸に，今も森さんは亘理町で「理想のいちご」づくりに取り組んでいます。

（写真提供：宮城県）
震災後，新たに実ったいちご

（潮出版「いちご畑をもう一度　3.11復興の奇跡」，亘理町森榮吉さんの聞き取りにより作成）